

令和 7 年 度

事 業 報 告

社会福祉法人

恵 愛 会

目 次

1	法人活動（総論）	・・・	1
2	経営戦略の実行状況について	・・・	2
3	筑波地域包括支援センターの実績	・・・	5
4	課別の施策	・・・	5
5	行事実績	・・・	9
6	職員研修実績	・・・	10
7	主要データ	・・・	11

令和7年度 事業報告

1 法人活動（総論）

令和7年度年度間総括

我が国は本格的な少子高齢化・人口減少社会に突入し、介護の担い手不足が見込まれるなど、地域福祉や介護をめぐる状況は目まぐるしく変化している。こうした中、本会では、ご利用者に対し安定して質の高いケアを提供できるよう、令和7年度事業計画に基づき、統一テーマ「チーム力を高め、ケアの質（業務の質）を向上させる」の実現に、一年間、職員一丸となって取り組んできた。

経営・財務に関しては、経営基盤の安定を図るため特養部門で稼働率目標 96%の維持に取り組み、本館、別館とも概ね目標を達成することができた。このうち別館について、令和6年度には稼働率が約 91%と目標を下回ったが、地域の関係機関との連携などきめ細かく対応に努めた結果、令和7年度は 95.4%まで上昇した。

一方、物価高騰や賃金の上昇等が続く中、本会もバランスを図りつつコスト意識を持って経費の節減に努めているが、電気料金や食材料費の値上がり、職員の処遇改善等に伴ってサービス活動経費は一定程度増加した。

その結果、介護保険事業収益が好調であったことから、経常増減差額は昨年度より増益となったが、運営コストは引き続き上昇基調にあり、今後も状況を注視していく必要がある。（後記「稼働率等の経年状況」参照）

人材の確保・育成については、国の育児休業及び介護休業制度の拡充を踏まえ、育児休業及び介護休業等に関する規則を改正し、働き続けられる環境の整備に取り組んだ。また、本会ホームページにおける求人欄の見直しをはじめ様々な方策により職員の採用・定着に努めた。ただ、令和7年度は例年より多くの離職者があり、その主な理由は「やりたいことがある（進学・転職）」「健康・体力上の問題」「職場の人間関係」などであった。現在、介護職員等の補充を急いでいるがなかなか採用に繋がらず、苦戦している状況にある。

施設・設備面では、JKA 補助金を活用した特殊浴槽の更新、本館の電動ベッドへの入れ替え等を計画どおり実施したほか、老朽化による設備故障等について適宜修理・更新を行った。

サービス提供の面では、重大事故の防止をはじめ様々な観点からケアを評価し、改善に努めた。特にご利用者の骨折事故については、昨年度より大幅な減少につながっ

た。また、昨年度、特養部門で不適切な事案が発生したことを踏まえ、グループワーク形式による研修やモニタリング担当者の配置など、法人をあげて再発防止に取り組んだ。

総括として、特養等の稼働率が順調であったことから概ね計画どおり業務を運営することができたが、介護職員等の確保や物価高騰などの諸課題は一段と厳しさを増した感がある。

2 経営戦略の実行状況について（各論）

① 財務計画に関する実績

- ・特養全体（ショート含む）の稼働率は 95.8%で、概ね目標 96%どおりの実績となった。
（内訳） 本館 96.1%（R6：96.1%） 別館 95.4%（R6：91.1%）
- ・デイサービスの稼働率は 90.2%（R6：88.9%）、1 日平均利用者数 16.2 人（R6：16.0 人）で目標 90%を達成することができた。
- ・（公財）J K A 福祉機器整備補助金や茨城県福祉施設等物価高騰対策支援金、つくば市介護保険サービス事業所物価高騰対策支援金など各種公的補助金を受給することができた。
- ・電力使用状況を職員間で共有し、デマンド（最大需要電力）を管理するなど節電に努めた。令和 7 年度は主に電力会社による料金改定の影響により、電気料は前年度比約 8%増となった。
- ・今年度は減価償却積立金の積み立てを見送った一方、当期資金収支差額は 6, 7 6 3 千円のプラスとなった。
- ・安定的なサービス提供のための指標である経常増減差額は 1 5, 0 6 9 千円となり、昨年度に比べ 3, 4 4 4 千円の増となった。

稼働率等の経年状況

		R 5	R 6	R 7
稼働率	従来・ユニット	9 5 . 7 %	9 3 . 8 %	9 5 . 8 %
	デイサービス	(6 6 . 4 %)	8 8 . 9 %	9 0 . 2 %
介護保険事業収益		6 8 1, 1 0 1 千円	6 8 2, 2 7 2 千円	7 0 4, 3 8 1 千円
経常増減差額		2 5, 6 2 6 千円	1 1, 6 2 5 千円	1 5, 0 6 9 千円
資金収支差額		7, 6 1 2 千円	△ 4 8, 8 1 2 千円	6, 7 6 3 千円
人件費比率		7 1 . 8 %	7 4 . 9 %	7 3 . 9 %

※包括支援センター分は除く。

デイサービスは R6.7.1 に通所介護（定員 30 名）から地域密着型通所介護（定員 18 名）に移行。

② 人事・労務計画に関する実績

- ・職員採用のため、法人ホームページの求人欄の見直し、本会職員からの紹介キャンペーン、ハローワークにおけるシニア求人（一般求人とは別枠）、紹介業者の活用等に取り組んだ。また、近隣の高等学校等への求人票の送付、インターンシップの受入れなど新規卒業者の求人に努めたが、新卒者の採用には至らなかった。

正規職員 採用 8(2)名（介護職 3、看護職 2(1)、その他 3(1)）

退職 12(2)名（介護職 7、看護師 3(1)、その他 2(1)）

※新卒採用 0 名、採用・退職者数（ ）内は勤務期間 1 年未満の者で内数

- ・働き続けられる、働きやすい環境を整備するため、育児休業及び介護休業等に関する規則の改正を行った。

子の看護等休暇の対象となる子の範囲拡大等（小学校就学前→3 学年終了）
介護休業の取得要件の緩和（就業後 1 年以上であることの要件を削除）

- ・一般事業主行動計画（令和 6～8 年度）の進捗状況については、以下のとおりとなった。

有給休暇の取得率 目標 80%／R7：72.2%（R6：73.2%）

時間外労働 目標月 3 時間以下／R7：1.7 時間（R6：1.1 時間）

男性職員の育児休業取得者 該当者なし（R6：2 名）

- ・外国人留学生奨学金（2 名、R9 年度卒業予定）の支援者となり、長期的な視点で介護職の人材確保に取り組んだ。
- ・業務の適正な推進を図るとともに、職員同士の意思疎通を円滑にするため、グループワーク形式による集合研修（事故発生防止、虐待防止、感染症対策等）を実施した。

③ 設備整備計画に関する実績

- ・（公財）JKA の福祉機器整備補助金を活用して本館の特殊浴槽を更新したほか、電動ベッドへの切り替え 10 台などを計画どおり実施した。
- ・ご利用者の動きを把握し安全にサポートするため、令和 7 年度事業計画に基づき、シルエットセンサー（ご利用者の動きをシルエットで判断し、スマートフォン等に知らせる見守り機器）2 台を新たに導入した。

- ・別館給水ポンプの故障で断水が発生し、緊急に対応を要するとともに設備の老朽化が進んでいたことから、別館給水ポンプの更新を行った。

④ サービス計画に関する実績

- ・職員の資質向上とサービスの質の向上を図るため、介護技術に関する勉強会を開催し、福祉用具の取り扱い等について知識習得に取り組んだ。またフロア会議の場を活用し、重大事故の防止、働きやすい環境づくりなど様々な観点からケアを評価し改善に努めた。
- ・骨折などの重大事故を防止するため、事故防止安全対策委員会等において、定期的に注意喚起し、職員の意識向上を図った。また、あらためて現状を把握し、居室等の環境を調整するなど早めの対応を心がけたほか、日頃から観察等に注意を払う中で職員のアセスメント力が向上した。こうした結果、ご利用者の骨折事故は3件（R6：14件）となり、昨年度より大幅に件数が減少した。
- ・令和6年度は特養において不適切な事案が発生したことから、全職員に向け注意喚起を図るとともに、虐待防止等研修の開催2回（計画2回）やモニタリング担当者の配置など再発防止に取り組んだ。
- ・資質及び生産性向上委員会のもと、職員の負担軽減等について検討し、腰部への負担軽減にも役立つスライディングボード（ベッドから車椅子等への移乗を補助する福祉用具）の活用を進めた。
- ・看護職の退職等に伴って夜間のオンコール体制が不安定になったため、民間企業によるオンコール代行サービスの利用（業務委託、R7.8～）を開始した。

⑤ 感染症や災害への対応力強化

- ・感染症の発生及びまん延等の防止、業務継続計画（感染症）に関する研修・訓練2回（計画2回）を実施した。
- ・令和7年度は感染症のクラスターが2回発生したが、その都度、臨時感染症対策委員会を開催し、情報共有を図りながら、対策を徹底して早期収束に努めた。
- ・業務継続計画（自然災害）に基づき、研修1回（計画1回）を実施したほか、地震により火災が発生し、鎮火後も停電が続いたとの想定で訓練1回（計画1回）を実施した。研修・訓練を通じて、対策本部の設営や安否確認、医療的ケアなど、いざという時に取るべき行動や課題を確認することができた。

⑥ 地域交流に関する実績

- ・圏域別地域ケア会議や自立支援型個別ケア会議において、地域の関係機関等との連携を図りつつ、地域の問題解決に向けて取り組んだ。
- ・民生委員協議会や見守り員懇談会、生活支援体制整備事業における協議体（地域の多様な関係者で構成）への参加を通じて、日常生活上の支援体制の充実、高齢者の社会参加の促進に努めた。
- ・フレイルサポート教室 5 回、健康教室 5 回、健康フェア・Well-being 体操 2 回等を計画どおり開催した。
- ・認知症サポーター養成講座 10 回、出前講座「在宅医療と在宅介護」4 回を計画に沿って開催し、地域住民に認知症に関する知識や在宅生活における医療・介護の知識をわかりやすく提供した。

3 筑波地域包括支援センターの実績

<相談区分別延件数>

相談区分	R 6	R7
介護・日常生活に関する相談	889	1,133
サービスの利用に関する相談	273	385
医療に関する相談	149	204
所得・家庭生活に関する相談	44	50
権利擁護に関する相談	42	60
苦情相談	6	8
安否確認	11	7
行方不明	2	3
合計	1,416	1,850

4 課別の施策

① 生活相談課

統一テーマのもと「業務の標準化及び相互理解を深める」を目標に、相談課会議等の開催に取り組んだ。

令和 7 年度は相談課会議 3 回（計画 6 回）を開催し、介護サービス計画書等の記載内容について点検及び意見交換することにより、受給者が真に必要なサービスの検証・確認に努めた。点検作業においては、「抽象的な表現はないか」、「インフォーマルサービ

ス・セルフケアは入っているか」、「短期目標は具体的な目標になっているか」、「専門用語を使っていないか」などを相談課全員で確認する中で、個々に様々な気づきがあったほか、ケアマネジメント手法に対する理解も深まった。

給付管理の面では、利用実績の入力手順等を再確認したほか、サービス提供実績や介護報酬、加算要件等について再点検を行い、請求事務の適正確保、事務作業の円滑化に努めた。

相談課会議の回数は計画の半分にとどまったが、日常業務においては、イレギュラーな状況に直面した場合でも、課内で相互に協力し業務を進めることができた。

② 介護課

「ご利用者を大切にするとともに、働きやすい環境をつくり、職員の定着を図る」ことを目標として、ご利用者の重大事故の防止と職員間の円滑なコミュニケーションを念頭に、フロア会議やチーフ会議、リーダー会議の定期的な開催に取り組んだ。また、フロア会議に合わせ、介護技術等の研修を実施した。

フロア会議は、計画に沿ってフロア毎にほぼ毎月開催することができた（R7：延べ 58 回／R6：延べ 67 回）。開催回数は前年度より減少したが、これまで参加者が少なかったフロアで開催時間、内容等を見直した結果、参加者数に改善がみられた。

骨折等の重大事故の防止については、センサー・アラームの活用、ベッドの低床対応などの現状を再確認したほか、ヒヤリハット報告も活用して、予防策の検討や居室等の環境調整など早めの対応を心がけた。また、日頃から注意深くご利用者の観察と見守りを行う中で、職員のアセスメント力が向上したと感じている。これにより骨折事故の発生件数は、前年度より大幅に減少した。（R7：3 件／R6：14 件）

介護技術の研修については、スライディングボード（前掲）の利用拡大に向けて、動画視聴や職員による実技指導に取り組んだことにより、その利用機会が増えたほか、ご利用者の離床時等の負担、職員の身体的負担の軽減につなげることができた。

③ 看護課

「テーマを決めて同じ目的のために一丸となり、ケアの統一性を高める」「業務の改善とスリム化を図る」「意見を言いやすい環境をつくる」を目標に、外部講師による勉強会等の開催、看護課会議・ミーティングの開催などに取り組んだ。

勉強会については、外部講師による勉強会「テーマ：感染対策について」1 回（計画 3 回（テーマは協議の上設定））のほか、嘱託医との意見交換会「テーマ：看取りや緊

急時の対応等について」1回（計画1回）を開催し、情報を共有した。今年度は勉強会の開催が1回にとどまったが、今後も当施設の課題に合ったテーマを検討・選定し、次の実施に向けて継続的に取り組んでいく。

ミーティングに関しては、看護課会議を5回（計画12回）開催し、回診時や急変時の対応、配薬作業など困っていることや疑問点について活発に意見交換した。また課内ミーティングを基本的に毎日実施し、ご利用者の状態等について情報を共有することにより、ご利用者に応じた処置に努めた。年度途中、職員の入退職も重なったが、徐々に一体感が高まっていると感じている。

業務改善の面では、限られた体制のもとで安定して医療的ケアを提供できるよう、業務の効率化等が必要と認識しているが、役割分担を明確化し、具体的な目標を設定するには至らなかった。今後ご利用者の健康を保持するため、職員間でコミュニケーションを取りながら、ひとつひとつの改善を着実に検討していく。

④ 栄養課

「チーム力を高め、円滑に仕事ができる環境を整える」「美味しく、美しく、食べ易さに配慮した食事をいつも提供する」の目標のもと、定期的に栄養課会議を開催するとともに、チーフ（栄養、調理）のスキルアップと栄養課の結束力強化に向けて取り組んだ。

栄養課会議を年3回（計画3回）開催し、衛生管理や廃棄を減らす方策、食事の盛り付け作業など、様々な議題について情報共有、議論・提案、意思決定を行った。会議を通じ、調理器具の保管場所、下処理の場所・時間などについて共有したほか、盛り付け方の工夫、廃棄を減らすための作業工程の改善と振り返りに努めた。

チーフ（栄養、調理）のスキルアップについては、チーフそれぞれが外部の研究会・研修に参加し、栄養指導及び調理技術の向上に努めた。また、チーフと施設長との面談を計画どおり概ね月1回実施し、栄養課が抱える課題を共有することができた。

ただ、チーフ（栄養、調理）間の話し合いについては、概ね月1回実施を見込んだものの、あらためて時間を設け連携を深める流れにはならなかった。

⑤ デイサービスセンター

ご利用者に「来てよかった」と言ってもらえる事業所を職員みんなでつくり上げることを目標に、「レク会議を開催し、前例にとらわれない、ご利用者本位の行事を計画する」「チーフによる職員面談を実施し、目標の共有、必要な支援を行う」ことに取り組んだ。

レク会議については、計画3回に対し、担当者の意見を踏まえて5回開催し、行事の改善

や新たな行事の企画・実施に取り組んだ。

(主な内容)

- ・脳トレ用プリントをご利用者が自由に選べるよう配付式からセルフ式に変更した
- ・運動レクを実施する際、一体感をもって全員で盛り上げられるよう座席配置等を工夫した
- ・毎月1回大会を実施し、上位者には表彰状をお渡しするようにした

また、ご利用者の希望を取り入れ、工作キットを用いたクリスマスリースづくりや、喫茶店に出かけて軽食、会話等を楽しむ行事を新たに実施した。

レク会議では活発に議論が行われ、スピーディーに実行に移すことができた。今後もこうした活動を継続するとともに、ご利用者からの評価を反映し、ご利用者に「来てよかった」と思ってもらえる、ご利用者本位の行事を計画していきたい。

チーフと職員との面談については、年2回の計画に対し、取り掛かりの遅れなどから年度後半1回の実施にとどまった。このため個人ごとに目標設定し、チーム全体で同じ方向を目指しつつ、自己評価できるよう支援していく行程はとれなかった。一方、実施した面談においては、幅広く聞き取りをしたことで、各スタッフが抱える課題や早急に対応すべき課題を認識することができた。これを踏まえ、日常的なやりとりによる補足も加えながら、効果的な業務運営に努めていく。

⑥ ケアサポートセンター

統一テーマのもと「アセスメント能力を高める」ことを目標に、OJTを通じた情報の共有、地域の課題解決に資するための地域交流倶楽部の開催検討、外部研修等への参加に取り組んだ。

OJTを通じた情報共有については、毎日朝礼を実施し、懸案事項や新規案件を確認する計画に対し、概ね計画どおり実施することができ、必要に応じて職員間で助言を行った。

地域交流倶楽部については、地域の方々の関心事を把握し、関係機関の協力も得て10月に開催する計画であったが、令和7年度は準備不足によりテーマを絞り込むことができず開催には至らなかった。

外部研修等への参加については、ケアマネ法定研修、圏域ケア会議、ケアマネ連絡会等に参加し、アセスメントに関する知識の確認、外部のケアマネとの交流などに努めた。

現在、当事業所は2名の少人数体制で、日常的に互いの進捗状況や課題等を把握しやすい状況にあることから、そうした特性も活かしながら、今後もケアサポートセンターの業務の質の向上を図っていく。

5 行事実績

	行 事	
R7 / 4 月	花見	フロア毎、園庭散策等
5 月	端午の節句	5/5 フロア毎に実施
6 月	全体外出(企画による:本館)	6/13 大洗アクアワールド 8名参加
7 月	七夕	7/7 フロア毎に実施
8 月	お盆 慰霊祭(特養)	8/13～16 仏間にて実施 8/24 (本館2階にて実施、全館放送)
9 月	敬老週間 敬老式典 彼岸供養(特養) 十五夜(特養)	9/9～9/15 (9/13.14 除く) 9/9 本館・9/11 別館 9/22 地下にて実施(全館放送) 10/6 フロア毎に実施
10 月	全体外出(企画による:別館) 十三夜(特養)	10/16 大洗アクアワールド 8名参加 11/2 フロア毎に実施
11 月	菊見	11 月中にドライブ実施
12 月	クリスマス会・忘年会	12/23 本館 12/25 別館 1.3 階 12/24 別館 2.4 階
R8 / 1 月	迎春・新年会 初詣 どんと焼き ならせ餅(特養)	正月飾りなど 1/7 昼食会食フロア毎に開催 1/14 どんと焼き 小規模実施 ならせ餅(餅花飾り)を購入し飾る
2 月	節分	2/3 フロア毎に実施
3 月	桃の節句 近隣ドライブ(特養) 彼岸供養(特養)	3/3 フロア毎に実施 フロア毎に実施 3/18 地下にて実施(全館放送)

6 職員研修実績

月		実施状況	資質向上		実施状況
			介護（入所・短期・通所）/看護/相談/ケアサポ/栄養		
			対象	内容	
4			栄養・介護	食中毒防止について	集合研修
5			介護	介護技術について	集合研修
6	虐待防止・ 身体的拘束適正化	集合研修			
7					
8	感染症予防等・ 業務継続計画（感染症）	集合研修			
9	事故発生防止	集合研修			
10	虐待防止・ 身体的拘束適正化	集合研修	栄養・介護	食中毒防止について	資料配布
11	業務継続計画（自然災害）	集合研修	介護	介護技術について	集合研修
12	法令遵守	講義受講			
1	個人情報・プライバシー保護	講義受講	介護・看護他	看取り介護について	資料配布
2	事故発生防止 感染症予防等	資料配布 資料配布	介護・看護他	褥瘡対策について	資料配布
3	虐待防止・ 身体的拘束適正化	資料配布	看護・介護 デイ	経管栄養について 入浴介助について	資料配布 資料配布

7 主要データ

1 入所者の平均介護度・平均年齢

本館

令和7年3月31日現在の平均介護度	3.98
令和8年3月31日現在の平均介護度	4.02

令和7年3月31日現在の平均年齢	85.9
令和8年3月31日現在の平均年齢	84.5

別館

令和7年3月31日現在の平均介護度	3.86
令和8年3月31日現在の平均介護度	3.72

令和7年3月31日現在の平均年齢	87.0
令和8年3月31日現在の平均年齢	88.7

2 ショートステイ介護度別利用実績

ショートステイ(従来型6床)利用実績 R7.4.1～R8.3.31

要支援1		要支援2		介護1		介護2		介護3		介護4		介護5		R7		R6	
人数	延べ日数	人数	延べ日数	人数	延べ日数	人数	延べ日数	人数	延べ日数	人数	延べ日数	人数	延べ日数	人数計	延べ日数計	人数計	延べ日数計
0	0	0	0	1	3	0	0	6	904	11	919	2	320	20	2,146	22	1,996

ショートステイ(ユニット型16床)利用実績 R7.4.1～R8.3.31

要支援1		要支援2		介護1		介護2		介護3		介護4		介護5		R7		R6	
人数	延べ日数	人数	延べ日数	人数	延べ日数	人数	延べ日数	人数	延べ日数	人数	延べ日数	人数	延べ日数	人数計	延べ日数計	人数計	延べ日数計
1	3	3	16	18	311	16	373	33	3,083	18	1,200	5	342	94	5,328	101	5,097

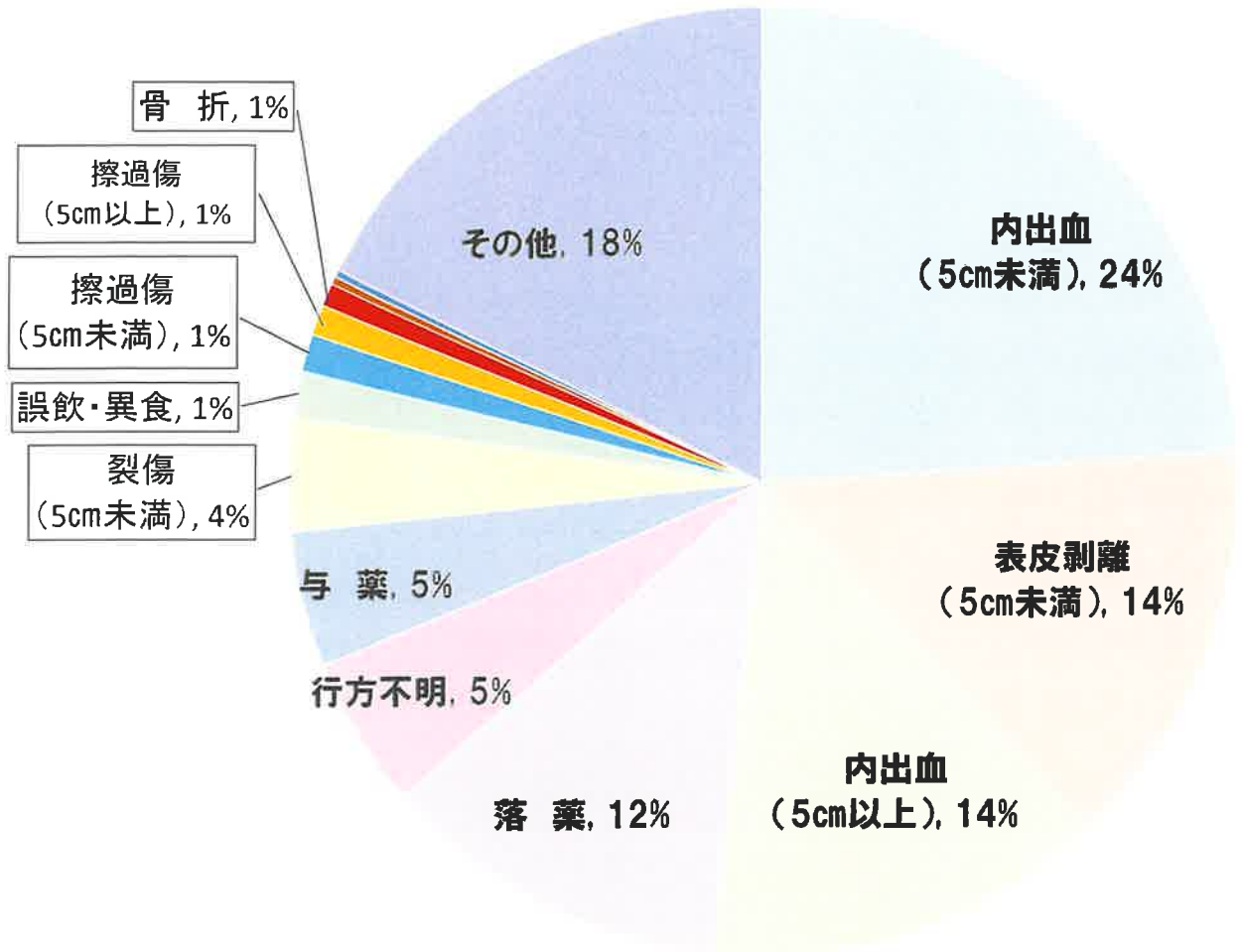
3 デイサービスセンター登録者数年齢別内訳表

	～64	～69	～74	～79	～84	～89	～94	～99	100～	計
R2.3.31	0	1	4	9	9	19	13	5	1	61
R3.3.31	0	0	4	6	10	15	9	5	1	50
R4.3.31	0	1	2	2	11	20	4	6	0	46
R5.3.31	0	1	2	5	12	16	10	2	0	48
R6.3.31	1	1	3	2	11	10	9	1	0	38
R7.3.31	0	1	1	5	8	9	14	1	0	39
R8.3.31	0	1	0	7	6	8	10	3	1	36

4 ケアサポートセンター月別担当件数実績(R7)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
初回加算	3	5	1	2	2	2	2	5	4	2	5	1
件数	52	49	53	52	49	49	51	55	54	51	52	54
支援	30	29	30	30	30	29	30	30	29	29	29	29

令和7年度事故報告集計



事故、ヒヤリハット件数の推移

単位：件

	事 故	ヒヤリハット
令和3年度	4 3 1	5 9 9
令和4年度	3 3 8	5 9 1
令和5年度	3 4 0	6 3 0
令和6年度	2 6 5	6 7 3
令和7年度	3 8 7	6 1 4

令和6年度、7年度の比較

単位：件

	令和6年度	令和7年度
事故件数	2 6 5	3 8 7
内出血 (5cm未満)	53 (20%)	93 (24%)
内出血 (5cm以上)	28 (11%)	53 (14%)
表皮剥離 (5cm未満)	34 (13%)	54 (14%)
落葉	29 (11%)	46 (12%)

※骨折事故 R6：14件 → R7：3件